

令和5年度 第2回いわき市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(子ども・子育て会議) 議事録

1 開催日時 令和5年11月27日(月) 午後3時から午後4時まで

2 開催場所 いわき市文化センター 1階 大講義室

3 出席者

(1) 児童福祉専門分科会委員(15名のうち10名出席) ※五十音順

荒川正勝委員、伊藤順朗委員、小野雅子委員、草野祐香利委員、志賀達生委員、菅波香織委員、鈴木隆次郎委員、富樫那都子委員、藤谷美由記委員、松本美穂子委員

(2) 事務局(10名)

こどもみらい部：長谷川部長、市川次長兼総合調整担当

こどもみらい課：篠原参事兼課長、丹野課長補佐、遠藤主任主査兼企画係長、上林主査

こども支援課：鈴木参事兼課長、佐々木主幹兼課長補佐

こども家庭課：沼田課長、赤塚主幹兼課長補佐

4 児童福祉専門分科会長の選任等について

(1) 児童福祉専門分科会長の選任について

いわき市社会福祉審議会条例第6条第2項の規定により、当該委員の互選にて、荒川正勝委員を児童福祉専門分科会長に選出した。

(2) 児童福祉専門分科会長職務代理者の指名について

いわき市社会福祉審議会条例第6条第4項の規定により、荒川会長から、鈴木隆次郎委員を職務代理者に指名した。

5 協議事項

(1) 次期子ども・子育て支援事業計画の策定について

ア 子ども・子育て支援事業計画と市町村こども計画について
(資料1、参考資料1、参考資料3)

イ 次期計画策定に向けた調査について(資料2、参考資料2)

6 会議の形式等について

- ・ 委員半数以上の出席があり、会議が成立していることを確認した。
- ・ 会議を公開することを確認した。
- ・ 議事録は、議事に直接関係する発言又は説明内容のみを記録し、委員名を記録しない「要点筆記方式」で作成することとした。
- ・ 議事録署名人は松本美穂子委員、志賀達生委員の2名を選出した。

7 内 容
 ～協議事項～

(1) 次期子ども・子育て支援事業計画の策定について

ア 子ども・子育て支援事業計画と市町村こども計画について（資料1、参考資料1、3）

発言者	発言内容
会長	協議事項(1)の「次期子ども・子育て支援事業計画の策定について」のうち、「子ども・子育て支援事業計画と市町村こども計画について」事務局より説明を求める。
事務局	資料1、参考資料1、3に基づき説明
会長	事務局の説明に対し、何か意見・質問があれば発言願いたい。特にないようなので、次に進みます。

イ 次期計画策定に向けた調査について（資料2、参考資料2）

発言者	発言内容
会長	「次期計画策定に向けた調査について」について、事務局より説明を求める。
事務局	資料2、参考資料2に基づき説明
	【質疑応答】
A委員	こども大綱の中間整理において、こどもまんなか、こどもの権利、こどもが主体という点がよく書かれており、この内容を子どもたちや市民全体へ伝えるということが必要なのではないかと。市でアンケートをするにあたり、こども大綱を子どもたちや親御さんに周知する機会を考えているか。
事務局	大綱の周知については、「子どもの生活実態調査」「ニーズ調査」の中での周知や、調査対象以外の方についてもパブコメ等による意見聴取を検討しており、今後周知方法について検討していく。
A委員	不登校により学校に行っていない子どもが、日中にどのように過ごしているかが、一つの大事な視点となるのではないかと。 小中学校で不登校の定義に当てはまる子どもが400名ほど、定義に当てはまらないけれども、例えば週に一回保健室に行っているなど、学びや体験が学校で出来ていない子どもが800名程度いると聞いている。全体の5、6%であり、そうした子ども自身の困り感や、保護者の困り感のよ

	<p>うなところもアンケート項目に加えてもらいたい</p> <p>現場の保育士に聞くと、保護者が子育てに主体性がない家庭があるとのことであった。現状の子育てに対する不安感がどのくらいあるか、自分が知らないことを気付けないとアンケートにも表れにくく、難しいと思われるが工夫してそういった視点も付け加えてもらえればよいのではないか。</p> <p>性別欄に男・女としか記載がないが、どちらにも該当しない場合の記載方法について、総務省の令和2年のアンケート等を参考に性別欄を工夫して欲しい。</p> <p>小学5年生は自宅で書いて、保護者の分も含めて子どもが学校に渡す仕組みだが、保護者が子どものアンケートを見ない方がよいということ、保護者、子どもたちに伝わるように何か工夫した方がよいのではないか。</p> <p>この調査結果から虐待や、非常に困難な事態になっている子どもの回答があった際に、その情報をいわき市として利用するというのを想定しているか。</p> <p>それぞれ頂いた意見について参考にさせて頂く。</p> <p>虐待等の回答があった際に利用できるのかについては、どの程度アンケートの二次利用ができるか調査し、検討してまいりたい。</p> <p>B委員</p> <p>子どもの病気の時の対応や健康維持についてどのように考えているのか、病気の予防についての知識がどの程度あるのか、食育について家庭で気を付けていることがあるのか、と言う視点については、アンケートに留まることなく、市の様々な活動の中で情報を得られるようにすれば効果的な結果が得られるのではないか。</p> <p>全般的にコロナ禍を経て子育て中で頭いっぱい手いっぱいな状態だと思う。現在問題をあげるとキリがなく、それに応えられるような答えが見つかるかというところでもない。まずは未来志向として、子育てをしていく上で将来像が描けているのか、どんな子に育てていきたいのか、中学校の実態調査の方では夢について記載があるが、現在子育てをしている保護者についても子育てについて夢があるのかどうか確認ができると裾野が広がっていくのではないか。</p>
--	---

	<p>中学校2年生の調査項目で、体格や体形についての項目はあっていいのだろうか、もう一度検討が図られるとよいのではないか。</p> <p>前回のアンケートについて、調査から世の中が変わっている。ゲーム・インターネットを何時間やっているかという内容があるが、今だとスマートフォンだったりタブレットの表記があったほうが答えやすかったり、身近に感じやすかったりするのではないか。</p> <p>朝食の摂取頻度について、小中学校でも朝食の調査があるが、朝食だけでなく一日の食事にしていくとよりいいのではないか。</p>
事務局	<p>子どもの健康をどのように考えているのか、どんなお子さんに育てていきたいのかがポイントになると思われるが、時代に合わない部分を含め、上手に聞けるように工夫していきたい。</p>
C委員	<p>現在働く女性が多い中で、子育てについて会社の制度や会社に理解をもらえるかというのをアンケートに入れてはどうか。保健室登校といった問題が出ているが、学童に預けるのとは違って、親が保健室に送迎する必要があり、そういった中で働く女性が送迎できるのか、会社の上司は理解してくれているのか、そういったところも考えていかなければいけないのではないか。</p>
事務局	<p>民間会社等における制度や、制度があったとしても実際に使えるかなどについてもうまく聞いていけたらと思う。</p>
D委員	<p>アンケート量が多いので自宅でやってくるのは大変だと思うが、最近は学校でもアンケートをタブレットで行っており、アンケートのやり方についてお聞きしたい。</p>
事務局	<p>おっしゃる通りで、前回の中学2年生のニーズ調査は28問、生活実態調査のほうは20問、生活実態調査は保護者にも27問聞いている。これを紙ベースで渡し、保護者は中身を見ないように封をしてということをやっている。学校でタブレットを一人一台持っている状況なので、これから工夫して回収率のいい方法、お子さんや親御さんの負担にならないような方法を取りたいと思う。</p>
B委員	<p>現在の予定では何名かピックアップした中でアンケートを取る形となっているが、仮にタブレット等を利用するのであれば、全体を対象とし</p>

事務局	<p>てもよいのではないか。</p> <p>予算要求の時点では紙ベースで行う予定で要求した件数になっている。中学生については、若者の意見聴取という観点から全員にアンケートを取ることを予定しており、中学生の2,500件は全数になる。</p> <p>タブレット等の電子で行った場合、集計等の作業で予算がどの程度かかるのかなど、再度検討していきたい。</p>
-----	--

～その他～

発言者	発言内容
委員	<p>「みんなの学校」の映画上映会と講演会について説明</p> <p>インクルーシブ教育という表現を使ってなかった頃に、木村泰子先生という方が大空小学校という大阪の公立の小学校で、いろいろな特性をもつ子どもと、いわゆる普通の子どもが、自分たち全員が学校作りの主役なんだという思いで、学校に関わっているという映画になっている。</p> <p>その木村先生の大人の子どもに対する接し方、子どもの人権を大事にするために、どのように子どもに関わるのがいいのか考えるきっかけになるような講演会についても併せて実施する。</p>
会長	<p>その他、質問事項等がなければ本日の議題は終了させて頂く。</p>